

なにわ たいむず

No.110

contents

- 01 news / 管理者うるしまのヨモヤマバナシ
- 02 お母さんの日々あれこれ
- 03 ブラマエダ / アトリエナニワ
- 04 Case Book
- 06 ジムインこいけのなんでも日記
サポータークラブ
- 07 スタッフ紹介

続、お楽しみ企画を実施しました！！

2月にワッフルを食べるお楽しみ企画を実施し、4月には「ウサギのかたちのパンケーキ」を焼きたてで提供して下さるキッチンカーをお呼びしました！ワッフルやパンケーキは、なにもわの里と歩む会からの「寄付で購入をさせて頂いております。いつも心からの応援、本当にありがとうございます。

キッチンカーの当日は、ほぼ100%の雨予報…。「雨降らないといいね…」と話していると、Hスタツプから「なにわの里のイベントは晴れますー」という力強い言葉が。その言葉通り、天気はもつてくれて、4月のさわやかな風を感じながら楽しむことができました。

ある利用者さんは、携帯ゲーム機でパンケーキの写真を撮っておられました。利用者さんにとって、楽しい思い出になれば嬉しいなと思います。

(小池)



NEWS

『柏原市発達障害児等支援事業』2022年度 完遂！

一年前のなにわたいむずでも紹介した、柏原市からの委託事業『柏原市発達障害児等支援事業』の初年度を、2023年3月に無事終えることができました。「発達障害児への個別療育」や「ペアレント・トレーニング」等の家族支援」など、市内の発達障害児やそのご家族、地域の方々に対してサービスをお届けすることができました。

参加者からは「子どもへの接し方が変わった」「グループで話ができ、孤独ではないことがわかった」など、満足度の高い感想をいただき、スタッフも手応えを感じることができました。これからますます地域で必要とされる事業所であり続けるよう努力していきたいと思えます。

(漆嶋)



管理者より

豚の生姜焼き弁当一択作戦

先日厚生労働省が公表した「将来推計人口」によると、日本の人口は33年後には1億人を割り、67年後の2070年には8700万人（現在より3割減）になるそうです。高齢者の割合は増え、生産年齢人口は3000万人ほど減ること。現在の東京の人口の2倍以上の人数です。また、外国人が増え、街では子どもよりも外国人を見かけることの方が多くなるかも知れません。とは言え、世界では人口が8000万人以下の国の方が多く（年齢の割合が違いますが）、そこまで悲観することではないような気にもなります。こういった情報に触れると未来が身近に感じます。未来を想像し、備えるために自分たちにできることは何なのか、きちんと向きあていかないとはいけません。個人的には、70歳まで健康で働くことができる状態であるためにはどうすれば良いかが一番の関心事です。

5月8日からコロナの感染症法上の位置づけが5類に変わりました。これまで3年間闘ってきたコロナとの向き合い方が、世の中の大きく変わります。待ち望んでいたことでもあるはずなのに、実際は戸惑いの方が大きいことが不思議です。生活施設という存在が微妙なのでしょう。世間が変化していく中、いつまでも我慢を続けることも難しいですが、かといって感染した際の影響は変わらずに大きく、守りに入りたくありません。法人としての基本方針は発信しますが、具体的な対策は時間をかける予定です。とか言っている間に第9波がくるのかな？

4月下旬から、月曜日だけ家族の弁当を作ることになりました。料理は得意ではない自分が、何とか効率よくおいしい弁当を作るために考えたのが、「豚の生姜焼き弁当」一択作戦です（繰り返すことにより熟練度アップ、メニューを考える時間の短縮）。パートナーの期待を背負い、くじけずにやっつけていけるか？継続が大事ですよ。今後の展開にご期待ください（期待してない？）



『うれしい出会いと残念な別れ』

・保育所の時、息子は今ほど上手に会話が出来ませんでした。でも、息子ととても仲の良かった友達がいる、その友達が息子の言いたい事を他の友達に代弁してくれていました。息子にとって大きな存在になってくれました。また、保育所の先生も、息子が上手に他の友達とコミュニケーションを取れなくて問題が起こっても、そのエピソードを泣きながら話してくれるような、すごく親身になって、息子の事を考えてくれる先生でした。自分たちは、息子とスムーズにコミュニケーションを取れず、イライラしたりする事もありましたが、そうやって理解してくれる人たちに保育所で巡り合えて良かったと思います。<H>

・息子が中学2年生の時の担任の先生で、家族構成が似ていたり、それ以外にも複数の共通点があり、自分たちとつながりを感じる先生に巡り合いました。その先生は、息子が何か頑張った時、必ず褒めてくれる先生でした。息子自身よりも、親の方が、その先生に対する思い入れが強かったと思いますが、息子が3年生になる時は、別の学校に赴任されたので、それがすごく残念でした。でも、息子が無事に中学校を卒業し、入学志望していた高校にも合格した事を報告して、喜んでもらいました。<ハイチュウママ>

担当者コメント欄

このテーマで保護者の方にお話を聞きましたが、やはり、先生や同級生に対する特別な思いを持っておられるようです。今回、皆さんのお話を伺って、保育園や学校の役割や重要性を再認識する良い機会になりました。(高木・高松)

今回のテーマ

うれしい出会いと
残念な別れ



お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです



『保育園での出会いと別れ』

・この頃になると思い出すのは娘の初めての集団生活となる保育園の入園式。初めて見る保育士さんやほかの園児たちを見渡したと思うと、じっとしていられず席を立てうろろ。年少組担当の先生が何とか自分の膝の上に座らせてくださり、無事終わりました。これが娘と私にとっての先生との出会いです。以後、身の回りのことや給食、トイレでのマナーを根気強く教えてくださり、日頃の暮らしに大変役に立ちました。

・そして3年後の別れとなる卒園式。「思い出のアルバム」を合唱。会話は単語を並べるだけだったのに歌は上手に歌えていてうれしくて泣いたこと、保育士さんやほかの園児との別れ。一番なつかしい思い出です。それ以降二度と「思い出のアルバム」は歌わず、曲が聞こえるものなら「キラリ！！」とパニックになってしまいます。何がそうさせるのか…。私にとっての出会いと別れでした。<K>



理事長マエダが、ブラブラするコーナーです



「(社福)六心会 堤理事長」
を訪ね、ブラブラ



はじまりました「ブラマエダ」今回は、六心会の堤理事長をブラブラと訪ねました。

マエダ「本日は堤さんが先駆的に実践されている『社会福祉連携推進法人』についてお聴きします」
堤さん「はい。私たち社会福祉連携推進法人リガールは、同じ想いを持つ5つの法人が、人材の育成・採用等について力を結集して取り組んでいます」

マエダ「なるほど。しかし、連携推進法人でなくても連携はできる。という声も聴えますが？」
堤さん「確かに連携法人自体は手段でしかありませんが、事業を存続させ、社会福祉法人としての役割を維持・発展させていく上では、中小法人連携は不可欠だと考えています。ポイントは、人口減少が続く中での『危機感』と『あとに続く人材の育成』ではないでしょうか」

マエダ「きちんと内外環境分析ができていますか？ その上で勝算のある対策を打っているか？ ですね」
堤さん「はい。毎月、管理職以上が集まり、『人材育成』『情報共有』『組織機能』『設備』『環境』『職員配置』『利用者支援』『地域支援』といった7つの領域について経営戦略会議を開催しています」
マエダ「人材育成については、様々な外部機関もあると思うのですが？」

堤さん「重要なことは、現場の生々しい課題にいつしよに向き合っていく多くの仲間がいること。経営も現場支援も、OJTが一番の学びの場になると考えています。そこが連携の最大のメリットだと思っています。主体性もなく、目的が共有できていなければ、意味はありませんが」
マエダ「それぞれの知識・経験を共有し、人材を次世代につないでいく。ということですね」

今回も、社福経営者向け雑誌に連載したいぐらい、お伝えしたい内容が多々ありましたが、紙面の関係上、超々コンパクトにまとめさせていただきました。堤さん、ありがとうございました。

アトリエヤニワ

なにわの里で使用している自立課題や
支援ツールを紹介するコーナー

『 選挙の投票意思確認 』



カードの種類《写真①》
せんきょにいく (左)
へやですごす (右)



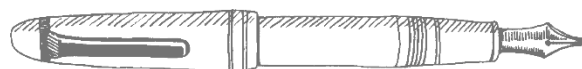
選択した方のカード
を手にする。
《写真②》

【ツールの説明】

- 投票所へ行く意思を確認するために、選挙に行くカード(左)と部屋のカード(右)を用意しました(写真①)。手に取った方を本人の意思として実施します(写真②)。

【ツールのメリット】

- カードを2種類用意して選択することで、本人の意思を確認することができる。



いつまでも楽しく食事ができるように…

通所支援 2 係 石谷友美



【はじめに】

なにわの里では 20～60 代と幅広い年齢層の利用者さんが生活されています。健康に生活するためには食べることは大切です。それぞれの利用者さんが安心・安全に食べることができるように、3 ヶ月に 1 回、言語聴覚士(以下、ST)に「食べること」に関する様々な悩みの相談を行い、その方にあったアドバイスを聞き取っています。今回はその中から嚥下機能を保つために取り組んだ支援を紹介します。

【ST 診察から支援までの流れ】(①～④を繰り返す)

	対応者	動き
①	現場スタッフ	利用者の食事の際の食べ方や姿勢など、気になる悩みを ST 担当スタッフに伝える
②	ST 担当スタッフ	現場スタッフからの悩みを ST に相談し、必要なアドバイスを聞き取る
③	ST 担当スタッフ	ST の診察内容やアドバイスを現場スタッフに伝える
④	現場スタッフ	アドバイスを聞き、一人一人にあった支援を行う

【A さんの事例】

A さんは 50 歳の男性です。日頃から背中が丸まった、いわゆる“^{えんぼし}円背”です。食事の時も、その姿勢のままかき込んで食べる習慣があります。また十分噛むことができていないためか、むせることが多く、喉を詰めたり誤嚥したりしないか心配だ…と現場スタッフから相談がありました。ST に相談し、食事の様子を見てもらってアドバイスを受けました。

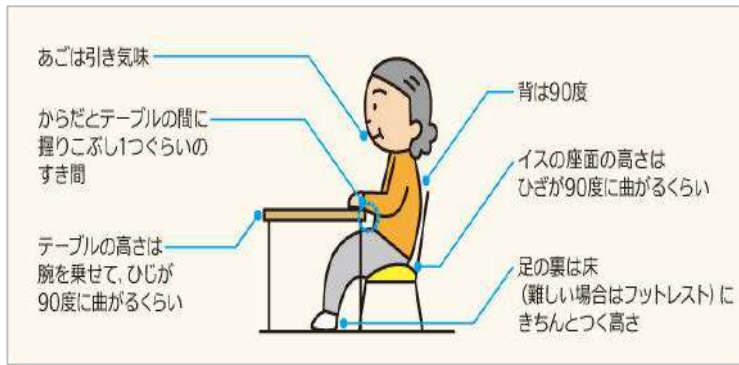
【ST の見解としては…】

- ・ 顎が斜め下に落ちて前傾姿勢で食べ物を飲み込んでいるため、誤嚥しやすい状態である
- ・ かき込んで食べる習慣は、喉詰めや誤嚥の可能性が高くなる
- ・ あまり咀嚼していないようだが、だからといって刻み食にすると、かき込んで食べた際に気管に入って誤嚥する可能性が高くなるので良くない・
- ・ むせることで、食べ物が気管に入ることを防いでいるため、食事ができていると思う。しかし、いつ誤嚥してもおかしくない食べ方である

とのことでした。今後この状態を続けると誤嚥をおこす可能性が高いことが分かりました。

【正しい食事の姿勢とは】

次の図①が正しい食事の姿勢です。図②が A さんの食事の様子です。正しい姿勢とは反対に顎が斜め下に落ちています。この姿勢でかき込むことで、食べ物が気管に入りやすくなります。



図① 正しい理想の姿勢



図② Aさんの食事姿勢

【Aさんへの正しい姿勢に近づく取り組み】

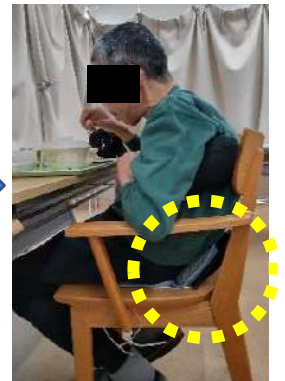
まずは正しい食事の姿勢に近づけるよう、2つの支援に取り組みました。

支援① 食事のかき込み予防

両脇にクッションを挟むことでクッションに意識が向き、肘が上がり過ぎることを防ぎます。
結果、かき込む動作ができなくなります。

支援② 食事のむせ込み予防

お尻と腰の間にクッションを挟んで骨盤を正しい位置にすることで姿勢が正され、飲み込む際に飲食物が食道を通りやすくなります。



・・・Aさんが食事をする時にこの姿勢を習慣づけ、むせを減らすことができるように支援中です。

【まとめ】

STからみて、ほとんどの利用者さんが食事の姿勢に課題を持っているとのこと。今は年齢が若く喉の筋力が低下していないため誤嚥する方が少ないが、年齢を重ねると筋肉量が低下し、飲み込む力も落ちていくため、誤嚥の可能性も高くなります。むせ等の症状が出る前に、早めに正しい姿勢を習慣付ける対策の必要性を改めて感じました。

一度、嚥下機能が落ちると回復するまでに時間がかかり、その間に誤嚥を繰り返す…というケースもあります。長い年月をかけて身につけた食事の際の姿勢や食べ方をすぐに改善することは難しいですが、できる限りの予防は必要です。利用者みなさんの楽しみの一つである食事が年齢関係なく、いつまでも美味しく食べられるようにSTと連携してこれからも支援していきたいです。専門家の目線で定期的に診察を受けることで、私たちスタッフでは気付くことのできない問題を早期に知ることができ、予防支援をすることができます。今現在、利用者が持っている機能を維持することが私たち支援者の役割だと考えています。

ジムインこいけのなんでも日記

空中ブランコの下の幸せ

3月に春休みということで、和歌山に家族旅行に行ってきました。自分は運転が超苦手で、和歌山に着いたらもうヘトヘト(笑)、頑張ったオレ、よくやったオレ、という気持ちでした。和歌山マリーナシティというほどよくガラガラな遊園地で遊んだのですが、二人の娘は嬉しそうに乗り物に乗っていました。

最後、何度目かの空中ブランコに乗っている娘二人を見上げながら、妻が泣いているのに気づきました。苦労かけているからなあという思いもあったのですが、それ以上に「今までいろいろ大変なことがあったけれど、これが自分の幸せなんだ」という思いがありました。

今からちようど10年前に体を壊してから、うまくいかないことがたくさんあったのですが、その経験があったからこそ空中ブランコを見上げながら「幸せだ」と感じられたのだと思うのです。

また、自分ひとりで身を固くして悩みや葛藤を抱え込んでいたとしたら、こんなふうには思えなかっただろうな、とも思うのです。たくさんの方に支えて頂き、その中でゆらぐことができたからこそ(できていたからこそ)、空中ブランコの下の幸せを感じることができたのではないかと感じます。

自分は「誰の目から見てもいい、光り輝くもの」よりも(それもあっていいと思うのですが)、「いろいろしんどいこともある中で、その人の目にだけ映る、優しくポワッと光る幸せ」のようなものが一つある、というほうが何というか好きなのです。日々いろいろある中で、その光は見えなくなるときもあるかもしれませんが、それを感じることができたときに「ああ、これが自分の幸せなんだ」と立ち戻る事ができる、そんな自分でありたいと思っています。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2023年1月1日～3月31日

(敬称略・順不同)

(法人の部)

アトリエらくだ

(個人の部)

坪田 信道

小畑 チヅ子

山下 孝子

西原 周美

小島 純子

森 克雄

合田 裕章

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！



林 大祐
(通所支援課
課長)

— 林さんが対人援助の仕事をしたと思ったのはなぜだったんですか？

高校生の頃だったと思うのですが、看護の仕事か、福祉の仕事…という感じで考えていました。というのも、青年海外協力隊のように海外に行って人と関われる仕事に携われたら…という思いがあって、そのためには専門職である必要がある、それなら看護か福祉かという考えでした。そんな中で、大阪の福祉系の大学に通うことになりました。大学では、児童福祉のゼミに入って、障害のある子どもと関わるボランティアなどもしていました。

— 重度の知的障害のある方と関わることになるのは、なにわの里に入職してからですか？

そうですね、採用実習の一日目だったか、二日目だったか、お昼ごはんが食べられなかったことを覚えています。そのときは感じていなかったのですが、やっぱり初めての環境で疲れみたいなのもあったんでしょうね。

仕事を始めた頃は、利用者さんの激しい行動なども「こういうものなのだろうな」という受け止め方をしていたというか…。自分の役割としてはその行動をただ受け止めることなんだろうな、というふうに思っていたところがあります。2年目くらいの時に、福祉関係の仕事をしている友達から「それはちがうんちゃう」という感じで言われたことがあって、そこで結構考えました。今はただただ受け止めるというよりは、その人の持っている強みを活かしたり、その人らしく過ごせる環境を作ることが僕らの役割なんだろうな、というふうに考えています。

— 今、課長という立場で管理業務をしているわけですけど、大変さってどんなところですか？

「管理業務が分からない」ということです(笑)。いや、というのは、やっぱり多くの業務をこなさないといけないので、「本来やるべきことってなんだろう」というふうに考えてしまうんですね。でも、とにかく今できることをするしかないと思っています。

— では、今思うこの仕事のやりがいってどんなことですか？

やりがいですか…。なかなか一言では言いづらいのですが、年度の終わりに退職者が少なかったりとかいかなかったりとか、そういうときに感じることはありますか。退職するのがだめだとか、そういうことでは全くないんです。ただ、自分の中で「長く利用者さんと関わることに一つの意味があるんじゃないか」という気持ちがあるんですね。

対人援助の仕事の大変なところとして、「どれだけやればいいのか」ということがない、ということがあると思います。そんな中でしんどくなってしまうこともあると思うのですが、そんなしんどい思いを周りの人に伝えたりとか、やり取りする中でどうにかやれている、そういうことが一つ大切なことなんじゃないかと思っています。

第110号

2023年5月18日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail naniwa@naniwanosato.jp

HP <http://naniwanosato.jp>

Facebookでチェック 

右のQRコードから
かんたんアクセス！

